

# 社会福祉法人若葉会

## 令和3年度事業報告書

### 1. 法人の概要

#### ・施設並びに事業

保育所型認定こども園わかば保育園  
地域子育て拠点支援事業  
病後児保育事業  
小規模保育所わかば保育園  
放課後児童クラブ 金城クラブ  
放課後児童クラブ わかばクラブ  
放課後児童クラブ 牧之クラブ  
塩沢デイサービスセンターゆきつばき  
居宅介護支援事業所ゆきつばき  
総合事業ゆきつばき  
雲洞デイサービスセンターつばき園  
雲洞グループホームつばき園  
・その他  
姉妹法人 学校法人 金城学園

### 2. 事業の概要

- ・塩沢グループホームゆきつばき施設整備
- ・各施設管理者の育成
- ・各施設の事業計画に基づく事業の遂行
- ・職員研修並びに育成

### 3. 財務の概要

- ・令和3年度決算報告書

以上

# 令和3年度 社会福祉法人若葉会 年間事業報告

項 目	内 容	テ ー マ
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	
目 標	職員「着実な歩み(キャリアパス)」	「自分の仕事に誇りを持つ」正確性
	環境「地域ニーズを先取りした環境をつくろう」	「同僚との絆を深める」信頼
年度基本方針	1 自己点検・自己評価による各施設職員の資質向上による「正確性と信頼そして誇りと絆」育成とキャリアパスの実践	・具体的な方策を考え実行 ・自分達の良いところ再発見
	2 職員の確保と子育て支援事業の充実、病後児保育の確立	わかば
	3 小規模保育の着実な運営	小規模わかば
	4 金城とタイアップした子育て支援事業の充実と子ども食堂運営	児童館
	5 3クラブの安定した運営	放課後児童クラブ
	6 地域から頼りにされるデイサービス/運営	ゆきつばき
	7 地域から頼りにされる居宅と新人職員の育成	居宅ゆきつばき
	8 利用者のための付加価値の追求と地域ニーズの再確認	総合事業ゆきつばき
	9 柔軟な職員配置:GH2ユニットの運用と共用デイの充実	つばき園
	10 厨房の効率化と楽しい食事の在り方検討	調理部門
	11 本部事務局の充実(事務職の専門性と効率化)	事務局
年間事業報告	内 容	結 果
	4月 新入職員歓迎会	(中止)
	5月 音楽コンサート(10月へ延期)	金城・わかば・児童館(会場:金城)
	6月 合同職員採用試験(中止)	(中止)
	7月 自己点検・自己評価	実施
	7月 ゆきつばきGH入札契約	(中止)
	8月 合同職員研修旅行(中止)	(中止)
	8月 合同職員採用試験(中止)	(中止)
	9月	
	10月 運動会	金城・わかば
	10月 合同職員採用試験(中止)	(中止)
	11月 合同職員採用試験	実施
	11月 自己点検・自己評価	実施
	12月 合同忘年会(中止)	(中止)
	1月 金城学園・若葉会合同職員研修	ゆきつばき+金城(会場:わかば)
	2月 合同職員採用試験	実施
	3月 ゆきつばきGH開所式	
3月 歓送別会(中止)	(中止)	
その他計画	中期事業計画(R3から3年)実行	
	施設間連携	新型コロナウイルス感染症により積極的な交流は控えた
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のためほとんどの事業が中止を余儀なくされた。各施設とも新型コロナウイルス感染症をしっかりと行ってくれたため、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザやノロウイルス等の感染症も防ぐことができた</li> <li>・ゆきつばきDS、つばき園DSでは新型コロナウイルス感染症対策やゆきつばきGH施設整備並びにDS改修工事のため利用者減となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度も新型コロナウイルス感染症対策は継続せざるを得ないので今年度対策を踏まえより効果的な対策を行う</li> <li>・中期事業計画を確実に遂行した</li> </ul>

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告  
施設名( 認定こども園わかば保育園 )

項目	内 容		具体的方策	
基本的な考え方	<p>私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります</p> <p>「働き甲斐のある職場づくり」</p>		<p>利用する人たちの信頼や期待にこたえられる職員を目指そう</p> <p>同僚間では課題に対しての評価を気づき合いながら働きがいのある職場づくり</p>	
理 念	<p>家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意する 乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る</p>			
	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	<p>保育理念・保育目標に繋げた保育の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の保持（衛生・健康管理や事故に対する予防）を行い、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える保護者への保育説明へつなげる（保育参観・おたより発信）</li> <li>・恵まれた環境を生かした活動の取り組み（畑・田んぼでの学び）</li> </ul>	<p>コロナ禍の不自由な生活の中でも今できる子どもへの指導や遊びの提案を心がけた。</p> <p>クラス単位での遊び場の確保に努力をし、感染予防に努めながら保育参観や行事を立案し、保護者への保育説明も生活が見えるような説明になるよう努力した。</p>
	2	<p>コロナウイルス感染予防対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止の3つの基本（身体的距離の確保・マスクの着用・手洗い）を利用者・教職員で、ウイルスを持ち込まない、ひろめないように実践</li> </ul>	<p>国や県のガイドラインに沿って予防に努め、保護者への協力依頼もした。大きな行事後感染経路不明の陽性者がでてしまい、濃厚接触者の範囲を広げ協力をしていただく。陽性者が出て園内感染を避けられるような体制を維持していくようにした。</p>
	3	<p>保育計画・見直し・記録の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に活かせる指導案の作成と活用しやすい記録の充実（ICTを活用した効率の良い記録の仕方）</li> </ul>	<p>各種書類の見直しを行い、無駄のない記録の仕方ができる職員が増えた。</p>
	4	<p>働きやすい職場環境づくりと人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者自身の自己肯定感を高める取り組みとして、保育に活かせる研修を立案</li> <li>・定められた時間内に効率よく出来る環境や仕事方法を、職員同士で考え実践</li> <li>・職員間で互いの良い面を伝え合い働き甲斐を見いだせる雰囲気づくり</li> </ul>	<p>行事で行う項目の研修や小学校につながる英語会話につながる楽しく取り組む活動を研修に盛り込む。愛着形成不安に関する研修も取り入れ知識を深めた。</p> <p>事務時間の確保に努め、定められた時間内に効率良く仕事ができる職員が増えた。</p> <p>行事評価の際に互いの良い面を伝え合い評価し合う職場の雰囲気になり、離職数も減った。</p>
	5	<p>困り間のある家庭へのアプローチ</p> <p>虐待予防と早期発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育生活のなかで、職員が子どもの姿や家庭の状況などから虐待の疑いを見抜く力を備え、報告・相談・連絡など行う体制を整える</li> <li>・虐待予防につながる家庭支援の在り方、困り感のある家庭（愛着障害）に寄り添えるよう研修等で学ぶ機会を持ち職員全体で知識を高める</li> </ul>	<p>虐待予防につながる職員の役割を理解するため継続した園内研修を取り入れた。（保護者との面接や連絡帳等での励まし）</p> <p>県からの虐待防止啓発ポスターなどを掲示し意識化に努めた。</p> <p>子ども家庭サポートセンターとの連携を行い、情報の共有化を図った。</p>
目標と実績	数値目標	実績	評価・反省	
	年間平均在所率	R2年度82/90人85% R3年度83/90人92%	・未満児の途中入園に対応し昨年度より増えた	
	地域子育て支援拠点事業 目標 100人	R2年度231人 相談件数20件 R3年度95人 相談件数25件	・コロナウイルス感染防止のため積極的に取り入れ出来なかったが電話相談や入園説明会での相談に力を入れた	
	病後児保育事業 目標 10人	R2年度 0人 R3年度 0人	・コロナウイルス感染防止のため積極的に取り入れ出来なかった	
	一時預かり事業 目標60人	R2年度 0人 R3年度 2人	職員配置の問題もあり余裕活用型で行うが要望に応えられなかった	
事故報告	件数	内容	対策	
	1件	<p>5歳児女児朝の自由時間アスレチック遊びを行っている際、ハードルを飛び越えるときバランスを崩し転倒した。左腕がハードルと接触し骨折し、金具で固定する手術を行った。</p>	<p>自由に遊んでいる時間に職員の人数が十分でない場合はハードなアスレチックの設定は避ける。以上児職員と主任等で遊びの設定の仕方を整理、職員のつき方の見直しを図った。</p>	
苦情申立	0件		なし	

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告  
 施設名( 小規模保育所わかば保育園 )

項目	内 容		具体的方策
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります 「働き甲斐のある職場づくり」		利用する人たちの信頼や期待にこたえられる職員を目指す 同僚間では課題に対しての評価を気づき合いながら働きがいのある職場づくり
理 念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意する。乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1	保育理念・保育目標に繋げた保育の取り組み ・生命の保持(衛生・健康管理や事故に対しての予防)を行い、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える保護者への保育説明へつなげる(保育参観・おたより発信) ・恵まれた環境を生かした活動の取り組み(地域の人の交流) ・心身共に明るく、思いやりや気配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる	コロナ禍の不自由な生活の中でも今できる子どもへの指導や遊びの提案を心がけた。 クラス単位での遊び場の確保に努力をし、感染予防に努めながら保育参観や行事を立案し、保護者への保育説明も生活が見えるような説明になるよう努力した。
	2	コロナウイルス感染予防対策 ・感染防止の3つの基本(身体的距離の確保・マスクの着用・手洗い)を利用者・教職員で、ウイルスを持ち込まない、ひろめないように実践	国や県のガイドラインに沿い予防に努め、保護者への協力依頼をした。職員が自ら感染予防に努め見本となり実践した。
	3	保育計画・見直し・記録の充実 ・保育に活かせる指導案の作成と活用しやすい記録の充実 (ICTを活用した効率の良い記録の仕方)	各種書類の見直しを行い、無駄のない記録の仕方ができる職員が増えた。
	4	働きやすい職場環境づくり 人材育成 ・保育者自身の自己肯定感を高める取り組みとして、保育に活かせる研修を立案 ・定められた時間内に効率よく出来る環境や仕事方法を、職員同士で考え実践 ・職員間で互いの良い面を伝え合い働き甲斐を見いだせる雰囲気づくり	園内研修ではこどものみ取り方や保護者支援の在り方に着目し、研修を行った。
			事務時間の確保に努め、定められた時間内に効率良く仕事ができる職員が増えた。 行事評価の際に互いの良い面を伝え合い評価し合う職場の雰囲気になり、離職数も減った。
5	困り間のある家庭へのアプローチ ・日々の保育生活のなかで、職員が子どもの姿や家庭の状況などから虐待の疑いを見抜く力を備え、報告・相談・連絡など行う体制を整える	虐待予防につながる職員の役割を理解するため継続した園内研修を取り入れた。(保護者との面接や連絡帳等での励まし)	
	虐待予防と早期発見 ・虐待予防につながる家庭支援の在り方、困り感のある家庭(愛着障害)に寄り添えるよう研修等で学ぶ機会を持ち職員全体で知識を高める	県からの虐待防止啓発ポスターなどを掲示し意識化に努めた。 子ども家庭サポートセンターとの連携を行い、情報の共有化を図った。	
	数値目標	実績	評価・反省
	年間平均在所率	R2年度12/15人80% R3年度14/15人93%	・0歳児の途中入園に対応し昨年度より増えた
	事故報告	0件	
	苦情申立	0件	

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名(塩沢金城わかば子育て支援センター・わかばクラブ・金城クラブ・牧之クラブ・塩沢金城わかば児童館)

項目	内容	具体的方策	評価・反省
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		児童館の事業目的・運営・方針を基本とし、児童館の仕事に誇りを持って子育て支援事業・放課後児童クラブの運営を行う
理念	児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る 一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的基本的な体験をさせる 地域のニーズを探り、児童館と地域とのつながりを生かして各種行事を開催し、地域に住む方々の子育てを支援する		
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 “児童館”としての事業目的・運営・方針の理解	・教職員間の共通理解および協力的体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する	新潟県の蔓延防止措置期間及び南魚沼市内(特に塩沢地区)が感染者増加傾向であった期間は、中止せざるを得ない状況であったため、飲食を伴う行事はほとんど開催できなかった
		・地域の子育て支援事業利用者のニーズに応えられる魅力ある施設となるように、館内環境設定を整え、維持する	・感染予防対策のための換気や消毒をして、利用人数を制限し、検温と健康チェックをして参加者を受け入れた
		・学童期の児童にふさわしい保育環境を整え、安定した生活を送れるようにする	・南魚沼市(特に塩沢地区)で感染者増加傾向が見られた期間は、感染拡大防止対策異のために各クラブごとに活動した
	2 コロナウイルス感染予防対策	・教職員および利用者の検温、館内の定期的な消毒・換気、ソーシャルディスタンスを配慮した活動を行う	・塩沢小学校で学級閉鎖が発生した期間も該当クラス以外の児童を受け入れたが、飲食時の感染リスク回避のためおやつを提供を休止し、館内の感染拡大防止に努めた
		・子育て支援事業担当者および放課後児童クラブ指導員・指導員補助の役割分担を明確にし、円滑な協力的体制を確立する	・円滑な協力的体制作りのために、各人業務の見える化を図ろうとしたが滞ること多く、次年度の課題として残った
	3 職員の資質や能力・良識の向上	・ママズミーティングを月一回開催するなど情報収集に努め、地域の利用者のニーズに合った魅力ある子育て支援事業を実施する	・ママズミーティングの参加者からは、子育て支援事業利用者ならではの有用な意見をいただき、その都度反映するよう努めた
		・放課後児童クラブ運営指針に基づく、質の高い学童保育を提供する	・コロナ禍で様々な制限をせざるを得なかった中でも、自己点検・自己評価などで振り返りの機会を持ち、学童保育の質の維持に努めた
		・ICTを活用した動画配信等を行い、保護者や利用者に見てもらう活動を理解していただく	・コドモンシステムの導入により、登降館の管理や保育料の請求に関わる事務作業の効率化を図り、保護者への情報発信を迅速に行うことができた
		・地域や自治体・企業などと協力しながら、次の世代を担う子どもたちの健全な成長を助けるために子ども食堂を開催する	・感染症予防対策のため参加人数を制限し内容を簡略化した。NPO等の団体の協賛をいただき子ども食堂を2回実施することができた
	4 地域の自然や社会との関わりを深める	・姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す	・コロナ禍により定員減での行事運営となったので、地域の小学校・保育所まで情報発信することは控えた
		・地域の公共施設及び関係者(子育てネットワーク会議等)・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく	・参加者を絞ったりZOOMでの開催にするなど、感染予防対策のため工夫して子育てネットワーク会議を開催し、コロナ禍で地域が必要としている支援とはについて検討した
		・ボランティアを積極的に受け入れ、本人と児童館利用者双方にとって有意義な機会となるよう調整を図る	・コロナ禍によりボランティア受け入れはできなかった
・放課後児童クラブの保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる		・常時換気のため冷暖房効率が悪く、感染対策のためのペーパータオル使用などでごみの量の削減は進まなかった	
目標	・コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら児童館行事を開催する	・感染状況が落ち着いている時期には定員を減らす等の配慮をしつつ児童館行事を開催した	
	・学童フェスティバルを年度末に開催し、セキュリティやプライバシーに配慮して作成した動画を保護者や地域関係者に配信する	・学童児のみの参加にはなったが学童フェスティバルを開催し、動画配信を実施しほとんどの保護者は動画配信を見てくれたが、地域関係者にご覧いただくまでは至らず今後の課題となった	
件数	内容	対策	
事故	2件 ・小2男子が、遊戯室2でのサッカーボール中に他児と接触し右鎖骨を骨折した	・勝負のある遊びに熱中しすぎないように丁寧に声掛けをすることとした	
	・小3女子が、跳び箱を飛び損ねて腰腰椎を打撲した	・跳び箱使用時の見守りを丁寧にすることとした	
苦情	1件 ・放課後児童クラブの保育料口座振替用紙の取り扱いについての説明が不十分であった。	・口座振替用紙の取り扱いについて銀行に再確認し、教職員間で周知した。該当の保護者には経緯を説明・お詫びしてご了解いただいた。今後口座振替用紙は児童館で回収して銀行へ届けるよう取り扱いを徹底し、次年度から入会案内に明記することにした	

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 ( 塩沢デイサービスセンターゆきつばき )

項目		内容		具体的方策		
基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにかかるとして、私たちから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に発言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		地域から頼りにされるデイサービス運営と土地購入並びに有効利用		
理念		私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。				
項目		内容		具体的方策		
				評価・反省		
年度基本方針	1	認知症対応型共同生活介護サービスを新設	塩沢地域には入所系施設が少ないため、住み慣れた地域以外の施設に入居を余儀なくされている高齢者の方が多い。地域に暮らす要支援・要介護者の多様なニーズに対応するべく、認知症対応型共同生活介護サービスを新設し、地域密着型サービスの充実を図っていく	4月に開設し、一人暮らしをされていた認知症の方2名を含め、入居が始まる。5月中には入居者5名となる予定。		
			基本設計、事業計画を策定し、市の選定委員会に申請。	南魚沼市より指定を受ける。		
			グループホームの新築とゆきつばきの増改築。	工事は既存のデイサービスの浴室改修工事が残っている。		
	2	省エネの推進を図る。	省エネセンターによる診断後、省エネの推進を図り、実施計画を策定し、補助金を活用して実施。	省エネの補助金は受けられなかったが、エアコンをガスから電気に変更。		
3	利用者一人ひとりが心身ともに健康で望む暮らしを続けられるような支援を行っていく。	日常生活を営むにあたり必要な機能の維持や向上を図り、ご本人のできることを、やりたいことを実現する。 集団レクリエーションだけでなく、利用者ができる『仕事・作業』にももっと目を向け、利用者が自らの能力に気づき、前向きになれるような支援にも力を入れていく。	全利用者の日常生活動作を数値化して定期的に評価を行っている。利用者全体の平均値の向上が図れている。 毎月、季節に合わせた手工芸を実施し、作品を自宅に飾って下さっているご家庭が多くみられた。また、例年通り姉妹施設の幼稚園保育園の卒園生へのプロテーゼの制作を行った。			
4	新型コロナウイルス感染症対策	施設内の感染対策を講じたマニュアルに沿って、施設内の環境整備（消毒清掃を含む）を行うなど感染予防を徹底する。また、陽性者が発生した場合にも、速やかに対応できるよう対策を講じておく。	3密を避け、パーティションを設置し、サービス提供後はしっかりと消毒・消毒を実施。地域での感染拡大に伴い、利用者や職員の中に感染者や濃厚接触者となったケースがあったが、施設内での感染事例は発生していない。			
		職員は日頃から「3密」を避け、しっかり体調管理を行い、必ず出勤前に体温を計る。また、施設内でのマスクや手袋の適切な着用と手洗い、うがいを徹底する。	職員の感染は家庭内感染のみで、一人ひとり日頃から感染対策を行えている。			
		ご利用者にも職員と同様の対策をお願いし、食事・休養を十分にとるなど、免疫力を高めることを心掛け、持病がある方は薬の飲み忘れにも注意していただく。	濃厚接触者となった利用者は数名おられたが感染されたのは1名のみで、重症化することなく利用再開できている。			
年度基本方針	5	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園との交流や地域のボランティアの受け入れはもちろん、ゆきつばきの日頃の様子を広報紙やブログなどで地域に発信することに力を入れ、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	コロナ禍で様々なイベントが制限される中、可能な範囲で法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携して行う。 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、思うように交流を行えなかったが、ウィルスの感染リスクを踏まえ、感染対策を行ったうえで幼稚園・保育園交流を再開した。			
		コロナ禍ではあるが、コロナウィルスの感染流行が終息次第、ボランティアの受け入れなどを再開。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ボランティアなど地域との交流が途絶えている。コロナ禍において何が出来るのかを改めて考えていく必要がある。			
		コロナ禍であっても、ゆきつばきの特色が分かるよう、行事や日頃取り組んでいることなどを地域に発信（毎月ゆきつばき便りやブログの更新）していく。	チラシやお便り、法人の広報誌などで地域に発信している。			
6	「虐待防止の強化」	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待が疑われるケースについては、ケアマネなど関係者と連携を図っている。また冬季法人研修で改めて虐待、不適切ケアについて学習。職員のストレスを軽減するなど日々予防に努めている。			
目標と成果	数値目標		実績		来年度に向けての方策	
	利用実績：6900人以上 地域との関係を深め、デイサービスの利用実績6900人（毎月の実績平均575人）以上を目指す。		535.8/月（年間：6,430）		新型コロナウイルス感染症の流行の影響や施設の改修工事の影響が大きく大幅に実績が落ち込んでいる。年度末より徐々に利用実績は回復している。	
事故報告	0件	なし。	内容		対策	
苦情申立	0件	なし。			大きな事故や苦情もなく安定した運営が出来ている。	

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告  
施設名( 総合施設ゆきつばき )

項目	内 容		具体的方策	
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		利用者のための付加価値の追求と地域ニーズの再確認	
理 念	私たちは、ご利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、心と身体の健康を支えます。			
項目	内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	機能訓練だけに特化せず、ご利用者のための付加価値を追求する。	ご利用者の希望を伺いながら、プログラムの充実を図っていきかかったが新型コロナウイルス感染症の流行に伴い料理教室や踊り、歌など希望通りのサービスを提供することは困難だったが、意欲の向上につながるメニューの立案を行っている。	
			ご利用者の声を大切に、身体機能の向上を図り、生きがい・遊りがいを持てるサービスを提供する。	お一人お一人ご利用者の意向の確認が出来るよう毎月聴き取りを実施し、プログラムに組み込んできた。体力測定、基本チェックリストの結果は向上が認められる。
		施設内の感染対策を講じたマニュアルに沿って、施設内の環境整備（消毒清掃を含む）を行うなど感染予防を徹底する。また、陽性者が発生した場合にも、速やかに対応できるよう対策を講じておく。	3密を避け、パーティションを設置し、サービス提供後はしっかりと清掃・消毒を実施しており、感染者は出ていない。	
	新型コロナウイルス感染症対策	職員は日頃から「3密」を避け、しっかりと体調管理を行い、必ず出勤前に体温を計る。また、施設内でのマスクや手袋の適切な着用と手洗い、うがいを徹底する。	職員の感染はなく、一人ひとり日頃から感染対策を行えている。	
		ご利用者にも職員と同様の対策をお願いし、食事・休養を十分にとるなど、免疫力を高めることを心掛け、持病がある方は薬の飲み忘れにも注意していただく。	感染症の流行状況に応じてお便りなどで注意喚起を行っている。	
		送迎人員や配車など、送迎に必要な情報を共有するため、しっかりと報告・連絡・相談を行なっていく。	新規のご利用者が増えた場合や、お休みの方がいた場合はその都度報告をし、連携を図る事ができた。	
	2	小規模わかばやゆきつばき等、法人内の他事業所と連携を図りながら、円滑に送迎や料理教室等のサービスを提供していく。	手工芸や料理教室、加作業の計画をしっかりと行い、準備に要する時間や物品などを共有し、連携を図っていく。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い料理教室が行えないなど制約ができたが、手工芸を中心に指先を動かすメニューを中心に実施し、喜ばれている。
		3	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、総合施設ゆきつばきの需要を高める。	地域のニーズや制度の変化などの情報の把握に努め、地域に開かれた施設として、地域の福祉の充実に貢献する。
	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにすする。		新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、最小限の交流をに留めていた。	
	4	虐待防止の強化	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待等の発生事例はなが、引き続き予防、早期発見、対応ができるよう努めていく。
目標と成果	数値目標	実 績	来年度に向けての方策	
	利用実績： 660（月平均55）以上	【R3年度】 平均55.5/月（年間：666）	昨年度と年間利用者数は大きく変化はなかった。引き続きコロナ禍においても安心してご利用いただけるよう努める。	
	件数	内容	対策	
事故報告	0件	なし。		
苦情申立	0件	なし。		

令和3年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

項目		内容		具体的方策
基本的な考え方		私達は地域の児童・高齢者の皆様のより良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか担えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		これまで築いた事業所の信頼関係を土台とし、専門職としての資質向上を着実にしながら、他職種との連携を密にし安心して暮らせる町づくりに事業所として貢献する。
理念		住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。		
項目	内容	具体的方策		評価、反省
年度基本方針	1 「職員の資質向上と安定した事業所の運営」	各種研修会への参加、地域包括支援センター開催の事例研究会への参加	コロナ禍の中web研修が主流となり機器の操作にも戸惑わずに受講できるようになった。利点、欠点もあると思われるが感染予防のため安全に受講できた。	
		事業所内勉強会の開催と包括支援センターとの地域ケア個別会議の開催	事業所内勉強会は毎月予定、資料内容によっては各自で学ぶこともあった。地域ケア個別会議は担当者により包括の依頼で持たれることもあり参加した。	
		担当人数32名以上を目標に業務を行う。	利用者の増減はやむを得ずあるが各人が担当人数目標を意識し業務に取り組み実績としては昨年を超えることができた。	
	2 「新人職員育成」	事業所各職員が職員育成に取り組み姿勢をもち人材を育てる。	本年度も残念ながら新人職員の入職は得られなかった。	
		指導者側のスキルアップ、研修会参加	地域主任ケアマネ研修に参加し他事業所の取り組みについて学ぶことで自事業の取り組みの振り返りを行った。専門研修Ⅱのファシリテーターを経験することでファシリテーターの実践を学ぶことができた。	
		いつでも相談できる職場環境、雰囲気作り	事業所内でお互いの立場を理解し合い声を掛け合い一人に負担の行かないよう思いやりのある行動、言動を行った。	
	3 「地域包括システム構築に向け率先行動する」	地域包括支援センター、医療機関、地域の他居宅と話し合いの場を持ち地域の課題について話し合う。	包括支援センター、医療機関とはいつでも相談できる関係作りはできているが地域の課題について話し合うまでの機会はなかった。	
		地域課題改善のための地域ケア会議への積極的な参加	個別ケア会議⇒地域ケア会議⇒地域課題を出し合い対策を講じて行くよう研修会では言われているが地域、事業所の取り組みとして中々実践できていない。	
		他職種、地域の方との連携を充実させるため研修会、MCS活用、民生委員の会への参加し顔の見える関係作り。	他職種との研修会に積極的に参加、顔の見える関係作りを行った。MCSを有意義に活用したり民生委員の交流会に参加、個人的な繋がりもとるように心がけた。	
	4 「感染予防のための取り組みの継」	基本的な感染対策の励行（手指消毒、環境衛生、マスク等着用、他者との距離をとり会話）	コロナウイルス感染、終息がまだ見えない状況であり基本的感染対策を個人々が守った、市内感染が広がりを見せた時には訪問時のフェイスシールド着用も行うことにした。	
		日常生活においても感染防止対策を徹底し高齢者への感染につながらないように注意し行動する。	私的な生活においても各人が感染予防の対策を心がけ行動した。	
	5 「感染症や災害発生時の日頃からの備えと業務継続に向けた取り組み」	災害時マニュアルの見直し	マニュアル内容について目を通し確認はしたが見直しまでには至らなかった。	
		新型コロナウイルス感染対策マニュアルの作成	感染対策マニュアルの作成を行った。	
		災害、コロナウイルス感染に関する研修会への参加	12月21日ふれあい支援センターにて地域振興局医薬予防課の方からの研修を受け新型コロナウイルスについて深く学ぶことができた。	
	数値目標		実績	
目標と実績	利用実績平均95人（一人31人）を維持する。	介護：1072件 前年比108.9% 予防：32件 合計：1106件 前年比106.9% 月平均 89.3件（一人29.8人）	・個々が力をつけていろいろなケースに対応できるようになってきた。その力を共有しながら更にケアマネジメント力を向上させ人材育成にも取り組みたい。	
件数	内容		対策	
事故	0件			
苦情	0件			



令和3年度 施設別 年間事業報告

施設名 ( 雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園 )

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「令和3年度介護報酬改定等への対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度介護報酬改定に伴う各種変更への対応を行う。</li> <li>基本報酬やグループホーム部屋代等変更の説明、同意。</li> <li>業務継続計画(BCP)の策定。</li> <li>非常災害対策の見直し。</li> <li>感染症対策の強化。</li> <li>ハラスメント対策の強化。</li> <li>利用者への説明、同意、記録の保存等に係る電磁的な対応への検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護報酬改定に伴う各種変更の説明を入居者ご家族に実施。令和3年度は部屋代(水道光熱費含む)の変更もあったため、併せてご説明、同意をいただいた。</li> <li>BCP等の非常災害対策などは令和3年度策定ができなかったため、令和5年度までの経過措置期間中に新設のグループホームゆきつばきと足並みを揃えて策定したい。</li> <li>ハラスメント対策の強化に関しては規定に盛り込まれた。</li> <li>記録保存等の電磁的な対応が可能となり、つばき園でも紙媒体の記録からタブレットによる電磁的な記録に切り替えた。</li> </ul>
	2	「職員の資質向上と人材育成」	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスを活かして自身の将来像を明確にし、誇りや自信を持ち、働き甲斐のある職場環境を目指す。また定期的なストレスチェックや面接を活かし、職員個々の抱える課題や悩みの解決に取り組む。</li> <li>自己点検、自己評価から抽出された課題を計画的に改善していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスや面接を活かし労働環境等について、職員個々の考えや方向性の共有、悩みの解決に努めている。</li> <li>自己点検から課題となった研修機会の提供について、キャリアパスと連動した具体的な研修内容を策定した。</li> </ul>
	3	「コロナウイルス感染症への対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会制限やボランティアの受け入れ制限等、コロナ禍での施設の対応や方針が過度になっていないかを常に考え、対応の見直しや代替案の検討を行う。</li> <li>職員及び利用者の健康管理、施設内の定期的な消毒、換気等感染症予防を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県からの指示に基づき、指示の範囲内で面会の解除、制限を行ってきた。オンライン面会は常時受付を行い、ご利用していただいた。近隣の感染者増加に伴い、制限の緩和が難しい状況であった。</li> <li>昨年度と同様に手洗い、マスク着用の基本行動の徹底と職員の出動前検温の実施、早期受診、行動自粛等を行い、施設にウイルスを持ち込まないように努めた。</li> </ul>
	4	「虐待防止の強化」	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令に定められている3か月に1回の委員会の開催や年に2回以上の実施が求められている虐待等の研修の実施により、知識の再確認、習得を行い、虐待等の防止に繋がっていると感じる。</li> </ul>
	5	「運営改善と柔軟な職員配置」	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令に定められた必要配置人員の確保を計画的に行なう。</li> <li>思いやり、絆を意識した施設内の連携を図り、無駄のない人員配置を行なう。</li> <li>経費の節減に取り組む。</li> <li>施設の特徴をアピールし、デイサービス利用者の増員、グループホーム入居待機者の確保を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要配置人員を確保しつつ、新設のグループホームゆきつばきに配置予定の職員の研修を実施した。</li> <li>紙による記録からタブレットの記録に移行したことで、紙使用が減り経費の削減が行えた。</li> <li>グループホーム待機者は一定数の確保が出来ていたが、待機者の入居依頼時期とつばき園の入居希望時期が合わず、空室期間が空いてしまう場合があった。</li> </ul>
目標と成果	数 値 目 標		実 績	来年度へ向けての方策
	デイサービス	年間延べ利用者数 927人	R2年度：804人 月平均：67人 R3年度：413人 月平均：34人	・R4年度デイサービスは休止。
	グループホーム	年間延べ利用者数 6242人(365日×18人×95%)	R2年度：6148人 月平均：512人 R3年度：6225人 月平均：519人	・待機者を一定数確保しておくために、居宅介護支援事業所や医療機関との連携を密に行っていく。
事故報告	4件	(グループホーム1F入居者) 居室内での転倒(夜間) 大腿骨頸部骨折	ベッド脇手摺、体動センサーの増設等居室環境の整備	
		(グループホーム1F入居者) 誤薬 他者の薬との飲み間違え(日中) 体調変化なし	確認手順の追加、見直し	
		(グループホーム2F入居者) 誤薬 他者の薬との飲み間違え(日中) 体調変化なし	確認手順の追加、見直し	
		(グループホーム2F入居者) 浴室内の転倒(日中) 上唇裂傷	歩行不安定者への対応手順の見直し	
苦情申立	0件	苦情申立なし		

